

派遣隊ニュース

～ with 岩泉 ～

No. 4 平成23年4月25日

かんばってるよ～



岩手県岩泉町の気候について、前号で「まだ風が冷たく感じる日がありますが、日を追うごとに温かくなり、桜のつぼみがふくらむなど春の訪れが目に見えてきている」とお伝えしましたが、第4班の派遣期間には雪も積り、気温が氷点下にもなったとのことで、岩泉での本格的な温かい季節はもう少し先のようにです。

一方、4月13日に昭島市医師会から託された「往診用車両」は、15日朝、伊達勝身町長さんに引き渡すことができました。また、地元紙「岩手日報」に昭島市の派遣隊の活動が掲載されたとのことです。

今号は、派遣隊第4班の皆さんの報告です。

◎岩泉町派遣隊第4班

- ・派遣期間 平成23年4月14日(木)～4月21日(木)
- ・主な任務 避難所に避難している人たちが被災地に行ったり、仕事に出かけたりする場合の入退室管理。面会者への対応。支援物資の仕分け。
- ※ 時間(1班) 午前8時から午後3時まで
(2班) 午後3時から午後10時まで

<平成23年4月22日(金)市長室にて報告>

町の人々・職員の声

- このような厳しい状況だからこそ、今年も、国内交流事業を実施して欲しい。昭島市民くじら祭にも是非参加したい。復興に向けての希望の灯になるはずだ。

町役場

- 「災害対策本部」から「災害復興本部」へ移行し、本格的な復興に向けて動き出した。

避難所

- 岩泉町民会館に約20人、龍泉洞温泉ホテルに約150人が避難している。町民会館の避難者は減ってきている。
- 避難所から仕事に行ったり、自宅を見に行ったりする人々が増えてきた。ホテル内で風呂や洗濯などの用を済ませ、避難所に戻る生活が続いている
- 洗濯用かごが足りないなど、一部の物資がまだ不足しているようだ。



仮設住宅

- 5月中の入居を目指して、小本地区の高台に3箇所、140世帯用の仮設住宅が建設されている。

学 校

- 被害の大きかった小本小学校、中学校の児童・生徒は、岩泉小学校の3階に通学している。
- 小本地区の子どもたちは、今後、同級生とバラバラの学校に通うことになるかもしれないことを少し不安に感じているようだ。

支援物資

- 被災当初から親類などの家に避難している人々に、なかなか十分な支援物資が届いていない。

医 療

- 介護や薬の必要な人たちが多く、保健師が休日なしで相談に回っている。

他の被害の大きかった地区

- 町役場ごと津波で流され、町長をはじめ職員の1/4が死亡、行方不明となっている大槌町を初めて視察した。市街地は「壊滅」としか言いようがない。

余 震

- 東京と異なり、緊急地震速報や携帯音と同時に突き上げてくる揺れ。

【北川市長の派遣隊員への言葉】

岩泉町以上に被害の大きい地域についての報告を聴き、改めて今回の地震と津波の凄まじさを実感した。今回の経験を生かし、昭島市の防災計画や訓練について、想定外の災害に対する避難所のあり方、避難所以外への支援物資の支給方法等積極的に発言して欲しい。

【派遣隊第4班の皆さんの感想】

橋本 博司さん(都市整備部用地課)

被災地を視察し、大津波の被害の大きさに愕然とした。亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、被災地の一日も早い復興を願っている。

浦野 和文さん(保健福祉部健康課)

被災地の現状を目の当たりにし、役に立つのであれば、二度でも三度でも応援に行きたいというのが正直な気持ちだ。

岡崎 茂樹さん(市民部産業活性化室)

被災地の中で、自らも被災した町職員が、被災者のために懸命に職務に従事する姿に深く心を打たれた。

安原 伸一さん(子ども家庭部子ども育成課)

避難所で、お年寄りや子どもたちが身を寄せ合い、助け合って生活していた。彼らの今後の生活に対する不安をなくしていくことは、たいへんなことであろうと実感した。

